宝塚大学
東京メディア･コンテンツ学部

News Letter vol.3

2010.11 月号

「宝塚大学　東京メディア･コンテンツ学部」の“今”を伝えます

報道関係各位

2010 年 11 月

「新宿文化ロード 2010」ギャラリーオーガード「みるっく」展示作品（11/5～11/25）

〔作者〕マンガコース　4 年　高野 英里 さん

「宝塚造形芸術大学」は、2010 年 4 月に「宝塚大学」へ名称変更しました

＜宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問合せ＞

宝塚大学　東京 新宿キャンパス　広報室

担当：山本、佐藤、金澤　　TEL：03-3367-3411

＜ご掲載・写真データ等に関するお問合せ＞

宝塚大学 東京メディア･コンテンツ学部　広報事務局　共同 PR 株式会社

担当：江頭（えがしら）、高橋（たかはし）、菅野（かんの）　TEL：03-3571-5228

国際的 CG イベント『ASIAGRAPH 2010 in TOKYO』開催 ゲームコース 川村 順一 教授、アニメーションコース 4 年 石橋 大輔さんが CG アートギャラリーの運営に尽力

世界の第一線で活躍するアジアの CG 分野の研究者とアーティスト、クリエイターが集い、先端技術の発表や作品の展示を行う、学術・芸術・展示が一体となった国際的 CG イベント『ASIAGRAPH 2010 in TOKYO』が、10 月 14 日(木)から 17 日(日)の期間、日本科学未来館（東京都江東区青海）で開催されました。

本学からは、ゲームコースの川村 順一 教授が、『ASIAGRAPH 2010 in TOKYO』のプロデューサーを務めました。また、アニメーションコース 4 年の石橋 大輔さんが、CG アートギャラリー学生運営委員会の委員長として、CG アートギャラリーのパンフレットの作成、会場設営、当日の運営に携わりました。そのほか、子供を対象に行われた、最新のペンタブレットを用いた CG 制作体験コーナー「こども CG ワークショップ」の指導スタッフとして宝塚大学の学生が常駐し、子供たちの目線に立ち分かりやすく作業の説明を行いました。

「CG アートギャラリー」には、約 1000 点の公募作品の中から選ばれた CG アート作品、CG アニメーション作品が展示されたほか、日本、中国、韓国、台湾、シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシアなどの国と地域から、約 50 名の招待作家の作品が展示されました。その中には、宝塚キャンパスの木村 智博 講師の作品も展示されました。

木村　智博 講師の作品

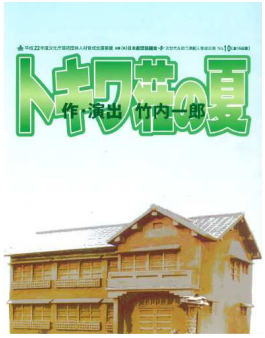
公募作品の審査を行った川村教授は、「今回も日本国内やアジア諸国から多くの作品が集りました。ASIAGRAPH の存在が、さらに多くのアジアの作家の方々に、知っていただいているという実感が得られ、喜ばしい限りです」と講評しました。

今回、展示会場の設営やパンフレットの作成、当日の会場対応等を含めた運営全般を担当した、CG アートギャラリー学生運営委員会の委員長・石橋 大輔さんは、「一概に CG アートと言っても、細かい技術を駆使した写真のようなリアルな描写を追及する作品もあれば、自分の中のイマジネーションをダイナミックに表現した作品もあります。来場者には、CG アートには様々なスタイルがあるということ、そして、アジアのアーティスト同士が切磋琢磨しているということを知ってもらいたいです」と述べていました。

CG アートギャラリー学生運営委員会が
制作したパンフレットを持つ
委員長の 石橋 大輔さん
（アニメーションコース 4 年）

1.HOT TOPICS－②

マンガコース　竹内　一郎　教授　作・演出
第 22 回池袋演劇祭参加作品『トキワ荘の夏』が盛況にて終了



マンガコース　竹内　一郎　教授の最新書き下ろし、演出による『トキワ荘の夏』（制作：劇団俳小）の公演が、2010 年 9 月 29 日（水）~10 月 4 日（月）の 6 日間、池袋のシアターグリーン　ビッグ・ツリーで開催されました。

「トキワ荘という謎」　竹内　一郎

昭和 20 年代、豊島区椎名町にあったトキワ荘というおんぼろアパートに集まった漫画家には天才が何人もいた。手塚治虫、寺田ヒロオ、石ノ森章太郎、赤塚不二夫、藤子・F・不二雄、藤子不二雄Ⓐ、水野英子…。野球選手でいうならメジャーリーガー級ばかりである。トキワ荘には、ドラフトで選ばれたわけでもないのに、なぜこんなに優れた人が集まったのか――。長い間、私の胸に小骨のように引っかかっていた謎である。

『トキワ荘の夏』で私なりの答えは出した。明治期の新劇や文学、ヌーベルバーグの洗礼を受けた頃の映画、事情はみな同じである。大きな才能を抱えていた人たちが集まっていたことは確かだが、加えて“躁の時代”と名付けていいような狂乱があった。二、三日徹夜が当たり前の状態が続くと、人はハイになってくる。ハイが常態になると、時々予想外の閃きが生まれるものだ。恐らく、トキワ荘では火事場の馬鹿力が一年中続いていたのである。

見方を変えれば、極限を超えて過酷な日々を過ごしても潰れない、強靭な精神と肉体の持ち主が集っていたことが奇跡といってもいい。

なぜ、そう思うのか――。私は 10 年近く『週刊少年マガジン』で漫画原作をやっていた。『ジャンプ』を抜いて、世界一売れている週刊誌になった頃の『マガジン』である。精神の限界を超えて、日々F1 レースを闘っている感じだった。連載作家の誰もが、“信じられない力”を発揮した。もう一度やれと言われても絶対にできない。奇跡に近い瞬間だった。その頃の『マガジン』は毎日が祭りのようだった、と当時の編集者はいう。

あれを 30 年続けたのが、トキワ荘の作家たちだった――。恐らく――。100 年でも生きそうな“化け物”たちの多くが、60 歳そこそこの若さで亡くなってしまった。早死にが残念であるものか――。手塚治虫氏は個人全集 400 巻を残した。これはギネス記録である。石ノ森章太郎氏に至っては、全集を出したら 600 巻を優に超えるだろうといわれる。多すぎて全集に収まらないのである。物語はすべてフィクションである。だが、彼らのスピリットは精一杯こめた。巨人たちの“夏”に、一端でも触れていただきたいと念じる。

＜竹内　一郎　教授　プロフィール＞

1956 年福岡県久留米市生まれ。演出家・劇作家・漫画原作者。横浜国立大学卒。九州大学博士（比較社会文化）。筆名（さいふうめい）で発表した『戯曲・星に願いを』で文化庁・舞台芸術創作奨励賞佳作、『哲也雀聖と呼ばれた男』（原案担当）で講談社漫画賞を受賞。その他の漫画原作に『少年無宿シンクロウ』（週刊少年マガジン）、『アストライアの天秤』（月刊アフタヌーン）、『中学生日記』（NHK 出版）など。
本名での著書に、非言語コミュニケーションをわかりやすく説いた『人は見た目が 9 割』（新潮新書）、『手塚治虫＝ストーリー漫画の起源』（講談社／サントリー学芸賞＜芸術・文学部門＞受賞）、など多数。

【お知らせ】

2011 年度（予定）　竹内一郎　作・演出作品

『山頭火と放哉』

～　大正時代に自由律俳句というスタイルで活躍した、種田山頭火と尾崎放哉という二人の偉大な俳人を描く　～

作・演 出：　竹内　一郎
日時　：　2011 年 12 月 7 日（水）～11 日（日）
場所　：　シアターグリーン　ボックスインボックス
制作　：　劇団俳小

1.HOT TOPICS－③

中国湖北省武漢市で開催された「WE3 ビエンナーレ展」で 加藤 圓 教授、渡邉 哲意 准教授が講演

「日中韓大学生デジタルアート ビエンナーレ・武漢・2010」で 宝塚キャンパス2年 山﨑 歩さんの作品が Japan ブースのメインイメージに採用されました

10 月 15 日～19 日、中国湖北省武漢市で「WE3 ビエンナーレ展」が開催され、東京・新宿キャンパスの加藤 圓 教授、渡邉 哲意 准教授が講演を行いました。「WE3」は「三カ国の私たち」の英語で、W は開催地である武漢（Wuhan）、E は東アジア（EAST ASIA）、3 は中国、韓国、日本という三つの国を意味し、「三カ国の私たち」が共同で主催する大学生のデジタルアート大賞のシンボルです。

「WE3」ロゴマーク

「WE3 ビエンナーレ展」は、デジタルアートとその理論的な研究、教育方法の向上、国際的な影響力の強化、中国のアニメーション産業の発展と異文化交流の促進などを目指しています。東アジアの国々が共に人材・技術交流を行うことで、将来的には武漢が世界のデジタルアートのハブとなる存在となることを目標としています。

加藤 圓 教授は教育モデルとデジタルアートの状況をテーマに、「大学のデジタル教育モデルの目標－感性と技術の融合－」について講演を行い、渡邉 哲意 准教授は「宝塚大学における教育モデル事例」について紹介を行いました。また、本ビエンナーレ展では、日中韓三カ国の大学生のデジタルアート作品のコンテストが実施され、宝塚キャンパス 造形学部 産業デザイン学科 イラストレーションコース 2 年 山﨑 歩さんの作品が、Japan ブースのメインイメージに採用されました。

加藤 圓 教授（中央）

渡邉 哲意 准教授（左）

「ＷＥ３ビエンナーレ展」会場外観

宝塚キャンパス 2 年　山﨑 歩さんの作品
（Japan ブース写真の上半分のイラスト）

1.HOT TOPICS－④

松本 零士 教授 特別講義 「何のために…創作の目的意識」

松本 零士　教授

10 月 23 日、宝塚大学　東京新宿キャンパスでミニオープンキャンパスを開催し、松本 零士 教授が特別講義を行いました。冒頭、松本教授は古い一枚の写真を取り出し、その写真の女性と松本教授の先祖の不思議な出会いや、『銀河鉄道 999』に登場するメーテルの「顔」、17、18 歳のときに松本教授が描いた女性の「顔」との類似性について話を始めました。「絵を描くみなさんの個性は、先祖代々の遺伝子の記憶が作用している」との話に、参加した高校生やその保護者の方は聴き入っていました。

≪松本 零士 教授 特別講義 一部要約≫

■何のために…創作の目的意識

マンガを描く際には、ただ面白いだけではだめで、目的意識の無い作品は漫画でも小説でも映画でも音楽でも、全てただの「作品」にしかすぎない。断固たる目的意識が必要となる。私の場合、目的意識に目覚めたのは若い頃に下宿で罹った「いんきんたむし」がきっかけだった。当時、我々の世代の男は風呂に 2、3 カ月入らないことは特に驚くことでもなかったが、それで皆いんきんたむしになってしまう。当時は、多くの人間が薬局でいんきんたむしの薬をくださいとは堂々と言えずにいた。

そこで私は、「いんきんたむしを公然と口走ることができる世の中にしてしまえばいいのではないか」という目的を持ち、悩める同士諸君がみな救われるよう『男おいどん』でいんきんたむし騒動を描いた。その結果、反響が大きく、感謝の手紙がたくさん来るようになった。手紙の中には、先生のマンガのおかげで私の彼が明るくなりました、というような手紙もあった。目的意識のある作品は確実に世の中に作用する。

■現実を見て大ボラを書く

例えば、月や惑星の話でどのような幻想的な未来の話でも、現実とどこかでつながっていないと共感を得ることはできない。現在では月の高精度な映像を実際に見ることができるようになったが、そこから 100 年後、1,000 年後はどうなっているか、拡大解釈を重ねて物語を考えることが漫画家の仕事。

自分の目で見て確かめて描くものと、写真だけ見て描いたものは全く違う。スケール感は実際に行かないと分からない。特に若い時に行ける所には行き、触ることができるものには触ることが大事。私もまだ健康なので、実際に宇宙に行き、この目で地球を見たい。

＜松本 零士 教授 プロフィール＞

16 歳の時に描いた『蜜蜂の冒険』で「漫画少年」第一回新人賞を受賞し、漫画界デビュー。その後、『光速エスパー』『男おいどん』『宇宙戦艦ヤマト』『銀河鉄道 999』『宇宙海賊キャプテンハーロック』などで日本を代表する超人気漫画家に。講談社出版文化賞児童漫画部門賞、小学館漫画賞、日本漫画家協会特別賞など受賞多数。2001 年、紫綬褒章受章。2010 年、旭日小綬章受章。

1.HOT TOPICS－⑤

【地域貢献活動】

■ 学生たちが「痴漢撲滅キャンペーン」出陣式に参加

■「らくがきなくし隊　落書き消去キャンペーン」に協力

10 月 4 日、「痴漢撲滅キャンペーン」の出陣式が新宿駅で行われ、本学の学生 5 人が式に参加し、宣誓を行いました。

「痴漢撲滅キャンペーン」は関東の鉄道事業者と警察が連携して実施されるもので、当日は関東近郊の各駅で同様に「痴漢撲滅の呼びかけ」が行われました。

新宿駅では、学生 5 人の掛け声に続き、参加者全員が「痴漢は絶対許さないぞ！」と宣言し、駅頭において、各鉄道の社員や警察官たちが、痴漢撲滅を呼びかけるポケットティッシュを配りました。

また、10 月 19 日には、新宿区大久保、百人町で実施された「らくがきなくし隊　落書き消去キャンペーン」に自治会を中心とする 8 人の学生が参加しました。

落書き消去キャンペーンは、東京都が支援する「落書き消去活動」（地域の防犯意識を高めることを目的として、各市・区、警察、その他の団体が主催）の一環として開催されました。本学の学生のほか、地元の小学生ら約 40 人が、電信柱や自動販売機などの落書き消しを東京都塗装工業共同組合会員らの指導のもとに行いました。

今後とも新宿に拠点を構える大学として、地域住民の方々や行政と連携した地域貢献活動に積極的に協力していきます。

2. 各コース紹介－①

マンガコース

授業紹介

マンガ・アニメ文化論（専門科目）〔 受講学年：２年　担当教員：竹内 一郎 〕

半期をかけて、長編漫画のネームを制作する授業です。短編作品を制作する授業は多いですが、学生には長編の構成を考えるのが難しいと思われてきたためか、長編作品を描く授業はこれまでほとんど行われてきませんでした。実際に作品を完成させることによって、困難さと手ごたえを感じ取ること、また、「原作があっても、漫画家の力量によって、作品の世界も水準も全く異なったものになる」という点を実体験して知ることが、授業のポイントとなります。

まず、授業の初回では、原作となる漫画作品を読むことから始まります。作品は、講師である竹内 一郎 教授原作の『中学生日記　誰にも言えない サバイバー』(原作：さいふうめい(竹内 一郎)、漫画：浅野 なお／NHK 出版）です。この作品は、NHK ドラマ『中学生日記』で 2006 年に放送された作品で、野球部の臨時コーチから性的虐待を受け、誰にも言えず壊れそうな心を抱えた主人公が、葛藤しながらも、周囲の人々の助けによって再生していくというストーリーです。

2 回目の授業では、同内容のテレビドラマ『中学生日記』を見て、3 回目の授業からキャラクターの設定の授業となります。

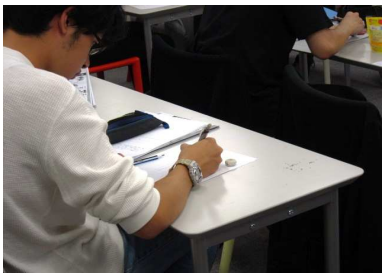
原作『中学生日記
誰にも言えない サバイバー』
（NHK 出版）

3 回目以降は、「原作の加除の考察」や「オリジナリティの追加」の後、実際にネームを描く段階に入ります。学生は竹内教授のマンツーマンの指導を受けながら、コマ取りや台詞の作成して、作品の完成を目指します。

竹内教授からアドバイスをもらう学生

参考として、過去に同じ授業を受けた
学生の作品を見ることができます

教室内は、黙々とペンを動かす音のみが
響きます



試行錯誤しながらキャラ設定をする学生

2. 各コース紹介－②

アニメーションコース

ＩＳＭＩＥ 2010 インターリンク・学生映像作品展

INTERLINK-STUDENT'S MOVING IMAGE EXHIBITION 2010

アニメーションコースの学生が映像作品を出展

日本国内の映像系の大学・専門学校、約 20 校の教員推薦による学生優秀作品を集めた「インターリンク・学生映像作品展 ISMIE 2010」（主催：日本映像学会・映像表現研究会）が京都で開催され、アニメーションコースの学生が制作した作品「夜来香」が上映されました。

今回で第４回となる本作品展は、日本映像学会・映像表現研究会が主催し、10 月 15 日（金）～17 日（日）に「京都メディアアート週間 2010」のプログラムの一環として京都で開催されました。東京では 11 月 20 日（土）～21 日（日）に、東京オペラシティータワー32 階「アップルジャパンセミナールーム」で開催されます（シンポジウムを 20 日 18 時より開催予定）。

「インターリンク・学生映像作品展」は、映像制作に励む学生同士が、互いの作品を見る機会を増やすことを目的としています。作品展を通して、今日的な問題意識の差異や共通性を見い出し見識を深めると同時に、学生たちの交流の場とする狙いも込められています。

『夜来香』

宝塚大学　東京メディア・コンテンツ学部　アニメーションコース３年次のグループ制作課題「歌のアニメーション」の一作です。楽曲は、中国の二胡奏者、武樂群氏による「夜来香」を使用しています。

制作年度：2009 年
作品時間：3 分 9 秒
作品形式：アニメーション「夜来香」
作 者 名：内山 美和、石井 歩、風間 めぐみ、後藤 光、山本 雄也、谷﨑 信彦
所　　属：宝塚大学　東京メディア・コンテンツ学部　アニメーションコース
※作品は YouTube でご覧になれます　http://www.youtube.com/user/TAKARAZUKAuniv

■「ISMIE 2010」シンポジウム

11 月 20 日（土）18 時より、東京オペラシティータワー32 階「アップルジャパンセミナールーム」でシンポジウムの開催を予定しています。シンポジウム直前のスクリーニングで、各参加校の代表作品を上映いたします。

3.教員紹介

イラストレーションコース　北見　隆　教授

学生には自らテーマを研究し、自発的に動いて欲しい
最終的には“志”や“決意”が各人の道を決める

― 手描きの重要性について
「パソコンも画材のひとつでしかない」

最近では、始めからパソコンで絵を描いて上手い人もいますが、手描きになると途端に下手になってしまう人もいます。私の感覚では、一年次は「原始時代（手描き）」、三年次以降でようやく「文明（パソコン）」を利用して、というイメージでいるのですが、今の時代はそううまくもいかないですね（笑）。私があえてアナログ（手描き）にこだわった授業を行う理由としては、イラストレーションを学ぶ過程において、手と指から描く感覚を身につけることがとても重要だからです。

学生には、自ら興味のあるテーマや分野を見つけて自発的に動いて欲しいと思います。その際はイラストレーションという枠組みにとらわれることなく、自由な発想で物事を観察し、実際に行動してもらいたいです。一度、授業で立体の仮面を作成した後、学生たちと作ったお面を被って近くの公園で写真を撮ろうとしたことがあります。結局、お面の姿が怪しかったのか、近くの警察官に注意されてしまいましたが、それくらいの行動力は必要です。

最終的にプロになれるかどうかは、最後まで志や決意を持てるかどうか、自分がなぜ絵を描くのか、その動機を常に忘れないことだと思います。自分の原点と社会へのメッセージ、その接点がイラストレーションなのです。

北見 隆 絵画展「詩を書く天使たち」

日時：11 月 4 日（木）～11 月 10 日（水）
　　10：00～20：00（最終日は 16：30 閉場）
場所：池袋東武百貨店 6 階美術画廊

「詩を書く天使たち」POST カード

＜北見　隆　教授　プロフィール＞

1952 年東京都生まれ。1976 年武蔵野美術大学商業デザイン科卒。絵本『夢から醒めた夢』や『聖書物語』で知られるイラストレーター。1987 年には「第 13 回サンリオ美術賞」、1997 年には「ブラチスラバ絵本原画ビエンナーレ 金のりんご賞」を受賞。1986 年より展示会を毎年開催。廃材を利用して立体作品などを生み出すリサイクル・アートでも積極的に活動している。

4. 今後の予定

■ 宝塚大学　東京メディア・コンテンツ学部　「ミニオープンキャンパス」

日　時：2010 年 11 月 20 日（土）、12 月 4 日（土）
　　2011 年 1 月 22 日（土）　各日 13：00 ～ 15：00

内　容：大学紹介、入試説明会、特別講義、個別相談、キャンパスツアーなど

■ 「新宿文化ロード 2010」　～　宝塚大学　東京 新宿キャンパス 学生作品展示　～

期　間：11 月 5 日（金）～11 月 25 日（木）

場　所：ギャラリーオーガード“みるっく”※

アクセス：JR「新宿」駅西口 徒歩 5 分／西武新宿線「西武新宿」駅 徒歩 3 分

※ギャラリーオーガード“みるっく”… 新宿区民が文化芸術活動の成果である創作品を展示する場であり、あわせて新都心にふさわしい、明るく美しい都市空間を提供するという目的で、新宿区がＪＲと東京都の協力を得て設置。

■ 自主制作漫画展示即売会「COMITIA94 拡大 Special」宝塚大学 ブース出展

日　時：　2010 年 11 月 14（日）11：00～16：00

場　所：　有明・東京ビッグサイト西 1・2 ホール

規　模：　直接参加 3,000 サークル/個人

来場者：　15,000 人（見込み）

＜卒業生情報＞

■ 卒業生　梅川 紀美子　原画展「巣・NEST」（http://www.umenyan.com/i-nest.html）

日　時：2010 年 11 月 22 日（月）～27 日（土）　11：00～19：00（最終日は 17：00 まで）

場　所：COFFEE & GALLERY「ゑいじう」東京都新宿区荒木町 22-28（http://www.eijiu.net/）

梅川　紀美子（うめかわ きみこ）氏　プロフィール概略

1963 年 2 月 15 日　大阪生まれ
1983 年 3 月　関西女子美術短期大学（現：宝塚大学）卒業
1995 年 11 月 サンリオ「詩とメルヘン」第 15 回イラストコンクール佳作賞受賞
1999 年 3 月　原宿表参道「ピガ画廊」で「詩とメルヘン」同期受賞者グループ展
2002 年 4 月　「イラストレーション No.136」第 124 回ザ・チョイス入選（ジョン・C・ジェイ氏）
2002 年 12 月 Society of Illustrators (New York) 45th Annual Exhibition 入選
2004 年 10 月　ギャラリースプーン（天満橋）で個展「MIST」
2006 年 2 月 20 日～25 日　東京日本橋兜町「すぎもと画廊」にて個展「MIST2」
2010 年 10 月 IFN「2011 カレンダーと原画・版画展」に参加
2010 年 11 月 22 日～27 日 ゑいじう（四谷三丁目）で個展「巣・NEST」　その他、企画展に年に数回出品